

1、 新地方会計制度による飯田市の財務諸表について

福沢 昨年12月に新しい会計制度による飯田市の財務諸表がホームページによって明らかになった。

これは家庭に例えれば、家計簿だけわかっていた状態から、その家の土地や建物など財産まではっきりしたということで画期的なものだと思う。

したがって、この財務諸表のわかりやすい解説と、飯田市の広報掲載など一層の情報公開が必要ではないか

市 わかりやすい解説に努めたい。また、3月15日付の飯田市の広報に貸借対照表を掲載する。新しい制度が発足して2年が経過したばかりなので今後の推移など明らかにしていきたい。

福沢 この財務諸表を作るにあたって、計算方法として飯田市では基準モデルを選んでいる。全国では、総務省改訂モデルが85%使われているがこのモデルを選んでいる理由はどうか。

市 一つ一つの資産の現在価値を試算し把握している。将来を考えてこのモデルを選んだ。今後の固定資産の維持管理にいかしていく。

福沢 平成20年度と21年度を比較すると、全会計貸借対照表では、純資産比率が1%、36億5千万円、財源が6億4千万円それぞれ増えているがどのように分析しているか。

市 純資産比率が上がったということは負債比率が下がったということ。繰り上げ償還、国の補助金が増えたことが原因。

財源は21年度の総収入のなかで1%であり適当な範囲と考えている。

福沢 平成21年度行政コスト計算書によると、補助金移転支出が17億5千万円余、人件費が5億8千万円余、委託費が4億余、20年度に比べて増えているがそれぞれの理由はどうか。

市 補助金は定額給付金、人件費は病院関係、臨時職員の増、委託費は妊婦健診の委託、市民バスの運行が主なもの。

福沢 平成23年度の予算では、21、22年度の決算を踏まえて、純資産比率、財源の残高はどうなるのか。

市 すべての会計で複式簿記を採用していないので23年度の予算との関係を明らかににはできない。将来すべての会計が複式を採用すれば、明らかにできる。

福沢 飯田市では、新地方会計制度について、他市に比べて先進的な計算モデルを採用し、いち早くホームページでの情報公開をしている。施策の基になる財政制度のこと。今後も自信を持って取り組まれない。